

修士論文（要旨）

2020年1月

日本語教育機関における「教師の成長」を支援する場とは
－教師支援者のインタビューからの考察－

指導 齋藤 伸子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

217J3008

細田 敬子

Master's Thesis (Abstract)
January 2020

Support Environments for Teacher Development in Japanese Language Institutions:
A Consideration from the Viewpoint of Teacher Interviews

Keiko Hosoda

217J3008

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate school of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Nobuko Saito

目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究動機と研究背景	1
1.2	用語の定義	2
1.3	研究目的	2
第2章	先行研究	3
2.1	教師の成長	3
2.2	教師支援	3
2.3	同僚性	3
第3章	調査概要と分析方法	5
3.1	調査概要	5
3.2	アンケート調査	5
3.2.1	調査協力者	5
3.2.2	調査方法	5
3.2.3	分析方法	5
3.3	日本語教師へのインタビュー	6
3.3.1	調査協力者	6
3.3.2	調査方法	6
3.3.3	分析方法	6
第4章	アンケート調査結果の分析と考察	8
4.1	アンケート結果の概要	10
4.2	アンケート結果の分析	10
4.2.1	「役に立つ」教師支援	11
4.2.2	「役に立たない」教師支援	12
4.3	アンケート結果のまとめ	12
第5章	日本語教師へのインタビューの分析	14
5.1	日本語教師へのインタビューと分析方法	14
5.2	日本語教師 A	14
5.2.1	日本語教師 A の概要	14
5.2.2	日本語教師 A へのインタビュー分析	14
5.3	日本語教師 B	22
5.3.1	日本語教師 B の概要	22
5.3.2	日本語教師 B へのインタビュー分析	23
5.4	日本語教師 C	30
5.4.1	日本語教師 C の概要	30
5.4.2	日本語教師 C へのインタビュー分析	30

5.5	日本語教師 D	38
5.5.1	日本語教師 D の概要	38
5.5.2	日本語教師 D へのインタビュー分析	38
5.6	日本語教師 E	46
5.6.1	日本語教師 E の概要	46
5.6.2	日本語教師 E へのインタビュー分析	46
第6章	5名の日本語教師の分析と考察	54
6.1	自分自身の成長	58
6.2	学び	58
6.3	教師支援の問題点	60
6.4	環境	64
6.5	教師の成長を促す場の提案	68
第7章	おわりに	70
7.1	今後の課題	70
7.1.1	調査協力者	70
7.1.2	調査方法	71
参考文献		
巻末資料		
資料1	調査協力に関する承諾書	I
資料2	教師支援に関するアンケート調査用紙	II
資料3	日本語教師 A のインタビュー文字化データおよび分析の一部	IV
資料4	日本語教師 B のインタビュー文字化データおよび分析の一部	V
資料5	日本語教師 C のインタビュー文字化データおよび分析の一部	VI
資料6	日本語教師 D のインタビュー文字化データおよび分析の一部	VII
資料7	日本語教師 E のインタビュー文字化データおよび分析の一部	VIII

現在、外国人受け入れ拡大に向けた法律改正に伴い、日本語教育および日本語教師が注目され、日本語教師への研修の在り方が議論されるようになった。しかし、日本語教育機関は学校教育のように教育内容、研修内容が定まっているわけではなく、その責任は各日本語教育機関に委ねられている。そして、日本語教師への支援も各機関、様々である（島田 2019）。日本語教育機関の日本語学校における教師支援として、研修、勉強会、授業見学、教案チェック、学習者アンケートのフィードバックなどがあり、主に専任講師から非常勤講師へ向けて行われている。これらの目的の大本としては、学習者の日本語力向上であるとともに、「教師の成長」をも目指しているが、これら教師支援は実際に機能しているのか疑問を感じる。

教師支援に対しては、問題点が報告されている。校内研修（今津 1996）、学習者アンケート（西口・梶田 1998）には課題があるといい、中田（2011）、牧野（2013）、藤岡（1998）は、授業見学や研究会に関して、教師間の意見交換が表面的であったり、上下関係を生み出したりすることをあげている。そして、教師支援者の役割の重要性については、木原（1998a）、横溝（2006）、金田（2006）より指摘があり、教師支援者への教育も必要とのことである。

本研究では、日本語教育機関で行われている教師支援について、まず、教師支援の現状を把握するため、アンケート調査を行う。次に、教師支援者へのインタビューにより事例を提示し分析、考察した上で、教師の成長を支援する場を提案することを目的とする。よって、以下のリサーチ・クエスチョンを設定する。

RQ1. 日本語教育機関で行われている教師支援は、支援を受ける側にどのように受け止められているのか。また、支援をする側は支援をどのように捉えているか。

RQ2. 教師支援の問題点は何か。

RQ3. 日本語教師はどのように「成長」していくのか。

アンケートは、日本語教育機関での教師支援について、その内容及び「役にたった」かどうかを問うた。インタビューは、アンケート協力者の中から教師支援の経験がある者 5 名を選択し、アンケート内容に沿って半構造化インタビューを行った。インタビューの内容は、調査協力者ごとに分析を行うとともに、調査協力者間を比較分析するため、佐藤（2008）の「事例-コード・マトリックス」を援用した。

アンケート調査の結果、教師支援は「役に立った」だけでなく、「役に立たなかった」という回答も見られた。そして、「役に立たなかった」理由としては、「支援内容」、「支援者」、「支援ツール」に対する否定的なコメントが見られた。次に行ったインタビュー調査では、日本語教育機関では、教師支援の体制は様々であり、新人に対する支援や学習者が少ない中上級レベルの支援は整っていない等、教師支援をする以前に機関の体制に課題が見られた。また、専任講師が、物理的・心理的距離の遠さから、教師支援者として機能していない可能性も明らかとなった。教師支援者は、支援を受ける側との意識の違い、伝わらなさといった問題意識を抱えながら支援を行っており、支援者同士のコミュニケーション、また支援者を支援する体制が必要であることが示唆された。日本語教師が学び続ける言動力さらに、何が成長かについても一概には言えず、同じような経験をしてそれを成長と捉えるかどうかは画一的ではなかった。日本語教育機関は多くの非常勤講師で成り立っている。このことに対して、課題もあるが柔軟な働き方ができるという利点もある。そ

の利点も活かす方向で、専任講師、非常勤講師ともに同僚性を感じる職場を設計することが各機関に求められるのではないか。そのためには、①専任講師は教師支援者の役割を持つこと、②日本語教師は自らの実践だけでなく、成長に関する振り返りの機会を持つこと、③教師支援者への支援に取り組むこと、が必要であるとする。

参考文献

- 青木直子 (2001) 「教師の役割」 青木直子・尾崎明人・土岐哲編『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社, 182-197.
- 青木直子 (2006) 「教師オートノミー」 春原憲一郎・横溝紳一郎編著『日本語教師の成長と自己研修：新たな教師研修ストラテジーの可能性をめざして』凡人社, 138-157.
- 秋田喜代美 (2010) 「学校を変えていく教師の対話と同僚性」 秋田喜代美編『教師の言葉とコミュニケーション—教室の言葉から授業の質を高めるために』教育開発研究所, 14-19.
- 飯野令子 (2010) 「日本語教師の「成長」の捉え方を問う—教師のアイデンティティの変容と実践共同体の発展から」『早稲田日本語教育学』5, 1-14.
- 飯野令子 (2011) 「多様な立場の教育実践が混在する日本語教育における教師の「成長」とは—教師が自らの教育実践の立場を明確化する過程—」『早稲田日本語教育学』9, 137-157.
- 伊藤美奈子 (2000) 「教師のバーンアウト傾向を規定する諸要因に関する探索的研究—経験年数・教育観タイプに注目して—」『教育心理学研究』48, 12-20.
- 今津孝次郎 (1996) 「岐路に立つ教師教育—教師教育パラダイムの転換を中心に」『教育学研究』63(3), 82-90.
- 岩川直樹 (1994) 「5章教師の実践的思考とその伝承 2節教職におけるメンタリング」 稲垣忠彦・久富善之編『日本の教師文化』東京大学出版会, 97-107.
- 牛窪隆太 (2015) 「日本語教育機関における「教師の成長」の批判的再検討—自己成長論から逸脱の場としての「同僚性」構築へ」『言語文化教育研究』13, 13-26.
- 岡崎敏雄・岡崎眸 (1997) 『日本語教育の実習—理論と実践』アルク, 8-36.
- 奥田純子 (2010) 「民間日本語教育機関での現職者研修」『日本語教育』144, 49-60.
- 金田智子 (2006) 「教師の成長過程」 春原憲一郎・横溝紳一郎編著『日本語教師の成長と自己研修：新たな教師研修ストラテジーの可能性をめざして』凡人社, 26-43
- 亀川順代 (2006) 「日本語教師の成長に関する意識調査—自己成長に関わる諸要因の基礎的研究—」『日本語教育』131, 23-31.
- 川喜田二郎 (1967) 『発想法—創造性開発のために』中央公論社
- 川口義一・横溝紳一郎 (2005a) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上』ひつじ書房, 28-47, 84-96.
- 川口義一・横溝紳一郎 (2005b) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック下』ひつじ書房, 266-271.
- 木原俊行 (1998a) 「13章自分の授業を伝える—対話と成長」 浅田匡・生田孝至・藤岡寛治編『成長する教師—教師学への誘い』金子書房, 185-196.
- 木原俊行 (1998b) 「14章同僚との対話と共同—校内研究の活性化を求めて」 浅田匡・生田孝至・藤岡寛治編『成長する教師—教師学への誘い』金子書房, 198-211.
- 河野俊之 (2009) 「第4部「教師」の飛翔」 水谷修監修、河野俊之・金田智子編集『日本語教育の過去・現在・未来第2巻「教師」』凡人社, 207-219.
- 近藤裕美子 (2015) 「教師ポートフォリオ作成ワークショップ—自律的、主体的に学ぶ教師の支援を目指した教師研修のデザイン—」『国際交流基金日本語教育紀要』11,

113-125.

- 佐伯胖 (1995) 『「学ぶ」ということの意味』 岩波書店
- 佐伯胖 (2012) 「第1章まなびほぐし (アンラーン) のすすめ」 荻宿俊文・佐伯胖・高木光太郎編 『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』 東京大学出版会, 27-68
- 坂本美紀 (2006) 「教職生活における困難と成長に関する現職教師の意識」 『兵庫教育大学研究紀要』 28, 35-42.
- 佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法』 新曜社
- 嶋田和子 (2019) 「日本語学校における教師研修の課題と可能性—学び合う教師集団とネットワーキング—」 『日本語教育』 172, 33-47.
- 中田賀之 (2011) 「第7章学校文脈における英語教師の同僚性とオートノミー」 青木直子・中田賀之編 『学習者オートノミー』 ひつじ書房, 193-220.
- 西口利文・梶田正巳 (1998) 「9章自分の授業を見直す—事業日誌法の活用」 浅田匡・生田孝至・藤岡寛治編 『成長する教師—教師学への誘い』 金子書房, 134-146.
- 西村学 (2009) 「職場での仲間作りと教師の成長—日本語学校の現場を考える—」 水谷修監修、河野俊之・金田智子編集 『日本語教育の過去・現在・未来第2巻「教師」』 凡人社, 111-132.
- 藤岡寛治 (1998) 「8章自分のことばで授業を語る—カード構造化法」 浅田匡・生田孝至・藤岡寛治編 『成長する教師—教師学への誘い』 金子書房, 118-133.
- 古川ちかし (1990) 「教員は自分自身をどう変えられるか—教員の自己改善に関する考察—」 『日本語教育論集』 7, 国立国語研究所日本語教育センター, 1-18.
- 文野峯子 (2009) 「教室のコミュニケーションから学ぶ—授業が分かる教師・授業を変えられる教師を目指して—」 水谷修監修、河野俊之・金田智子編集 『日本語教育の過去・現在・未来第2巻「教師」』 凡人社, 181-206.
- 牧野由香里 (2013) 『対話による学びへと続く道—学校改革「学びの共同体」づくりのナラティブ・エスノグラフィー』 ひつじ書房, 25-26, 332.
- 松下恵子 (2016) 「日本語教師の自己成長と Informal 学習—2名のライフストーリー分析の結果から—」 『待兼山論叢. 日本学編』 50, 117-140.
- 松田真希子 (2005) 「現職日本語教師のビリーフに関する質的研究」 『長岡技術科学大学言語・人文論集』 19, 215-240.
- 茂住和世・足立尚子 (2004) 「クラス授業で行われる音読に対する教師の目的意識—外国人学習者に対する日本語教育現場での調査から—」 『東京情報大学研究論集』 8(1), 35-44.
- 山崎準二 (1994) 「12章教師のライフコースと成長」 稲垣忠彦・久富善之編 『日本の教師文化』 東京大学出版会, 223-247.
- 横溝紳一郎 (2006) 「教師の成長を支援するということ—自己教育力とアクション・リサーチ」 春原憲一郎・横溝紳一郎編著 『日本語教師の成長と自己研修: 新たな教師研修ストラテジーの可能性を目指して』 凡人社, 44-67.
- 和田礼子 (2008) 「同僚教師との共同作業がもたらす教育の質の向上—教師間の連携の重要性について—」 『鹿児島大学留学生センター年報』, 1-7.

参考 WEB サイト

日本語教育振興協会 日本語教育機関実態調査 2018 年度

<https://www.nisshinkyo.org/article/overview.html> (閲覧 2019 年 11 月 4 日)

日本語教育人材の養成・研修の在り方について (報告)

http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/_icsFiles/afieldfile/2018/06/19/a1401908_01.pdf (閲覧 2019 年 12 月 4 日)

日本語教育の推進に関する法律について

http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/other/suishin_houritsu/index.html (閲覧 2019 年 12 月 4 日)